

専門委員会開催報告

委員会名	第 1 回「モンテカルロ法による放射性物質輸送容器の遮蔽安全評価手法の高度化」特別専門委員会
開催日時	平成 23 年 8 月 2 日(火) 13:30～16:30
開催場所	原燃輸送株式会社本社 3 階大会議室
参加人数	委員 11 名(坂本主査、谷内幹事、松本幹事、大石委員、奥田委員、菊池委員、澤村委員、清水委員、高橋氏(月山委員代理)、増川氏(中島委員代理)、吉岡委員、オブザーバ 3 名、事務局 2 名
議 事	<p>1. 委員変更及び委員の代理出席について</p> <p>事務局より、原子力安全基盤機構の坂本委員退職に係り、今回より奥田委員に参加して頂くことになったことが報告された。</p> <p>2. 今年度検討方針の確認</p> <p>資料 1-1 平成 23 年度「モンテカルロ法による放射性物質輸送容器の遮蔽安全評価手法の高度化」特別専門委員会検討方針に関する審議事項の結果は下記のとおり:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ガイドライン案において、モンテカルロ遮蔽計算で妥当な計算のできるプロセスを示すことが合意された。 ・ ガイドライン案には「妥当な計算結果が得られる計算プロセス」を示すが、そのプロセスを構成する各段階の個別の計算手法は限定的なものではなく、計算者が使用したいものを選択できる余地を残すものとする事が確認された。 ・ ANSI/ANS を参考にしたガイドライン案を記載することが合意された。ただし、日本原子力学会標準に取入れられることは考慮すべきである。 ・ 昨年度までの輸送容器体系のベンチマーク問題に対する検討方針は継続し、その上で、現在の日本における主要な輸送容器の実測値との比較も追加することが合意された。 ・ 主要な輸送容器の実測値及び幾何形状モデルには事業者の開示請求が必要である。(本会議後了解が得られた) ・ 従来使用されている決定論的手法に基づく計算において、DLE-23 群定数以外に JENDL-3.3 ベースの群定数も使用することが合意された。 ・ 原子力学会での成果発表は来年春の年会ではなく、秋の大会で行うことが合意された。 <p>資料 1-2 モンテカルロ法による放射性物質輸送容器の遮蔽安全評価ガイドライン原案(1 章～6 章 1 節)に関する審議事項の結果は下記のとおり:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 申請書記載内容を詳細化した資料で必要な説明項目を示す文書化方法の検討を行うことが合意された。 <p>資料 1-3「NH-25 型輸送容器の MCNP による中性子遮蔽ベンチマーク解析」に関する審議事項は下記のとおり:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 輸送容器胴部で実測値と計算値の間で差がでるのは、上部トランニオンの影響及び

	<p>燃料を均質として中央配置した近似(実際の燃料では偏りがある)が理由と考えられる。ただし、縦置きでの測定であるため、燃料の偏りの影響は小さい。</p> <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none">・次回委員会開催は 10 月下旬を候補に調整する・ガイドライン案の議論箇所については事前にメールベースなどで議論する・今日の部分も含めて委員からコメントいただきたい
備考	